

障害者団体ヒアリング

結果のまとめ

1 目的

「葛飾区障害者施策推進計画」を策定するにあたり、障害者意向等調査に加えて、区内の障害者団体からヒアリングを行うことにより、区における効果的な障害者施策を構築するための基礎資料を得る。

2 ヒアリング期間

平成 28 年 9 月 16 日（金）～11 月 4 日（金）

3 ヒアリング団体一覧

団体番号	障害者団体名	障害種別
①	葛飾区障害者福祉連合会	身体（・知的）
②	葛飾区視覚障害者福祉協会	身体
③	葛飾区聴力障害者協会	身体
④	葛飾区肢体不自由児者父母の会	身体
⑤	葛飾区地域腎友会	身体
⑥	葛飾・江戸川三校連絡会 （東京都立葛飾特別支援学校 P T A、東京都立水元特別支援学校 P T A、東京都立鹿本学園 P T A）	身体・知的
⑦	東京都立よつぎ療育園保護者会	身体・知的
⑧	葛飾区手をつなぐ親の会	知的
⑨	精神障害者家族会 葛飾たんぽぽ会	精神
⑩	高次脳機能障害者 家族会 かつしか	精神
⑪	葛飾パーキンソン病友の会 げんき会	難病

(1)日常生活や社会参加をする上で困っていることについて	団体番号
車いすを利用しているが、外出が大変である。バスに乗る時も気が引ける。	①④
外出時に介護タクシーを利用するが、交通費がとてめかかる。	①
一人で出かけられないため、交通費が付添人の分も必要となり、2倍かかる。	⑪
障害者手帳を持ってない難病患者は、交通機関(バス・電車)の割引が受けられない。	⑪
障害者に配慮された環境(優先席、駐車場、トイレ、おむつ替え用ベッド、駅のエレベーター等)が整備されていない場所がまだ多くある。	⑥⑦
駅のエレベーターはホームの端にあることが多くて不便である。	①
肢体不自由のため、エレベーターに乗る時に混んでいると後に回されることがある。	④
一般車両が障害者用スペースに駐車していたり、健常者が車いす利用者用トイレを使っていることが多々ある。	⑥
水元総合スポーツセンターの温水プールの障害者更衣室の使い勝手が悪い。	⑧
路線バスは障害者の自立生活を支える大切な足である。京成タウンバス白鳥線の運行本数が少ないのは不便でなので、朝夕の時間帯は1時間に3本は運行してほしい。	⑥
障害者団体のイベントなら積極的に参加できるが、健常者と一緒のイベントは遠慮して参加できない。	①
ヘルパーの確保が難しいときがある。ヘルパーが決まるまで、行事の参加等を申し込んでよいのか不安になる。	④
「こちらをご覧ください」や「ホームページをご覧ください」と言われても、視覚障害なので分からない。	②
視覚障害者であるが、音声データは普及してきていると思うが、健常者より情報源が少ない。	②
近所にちょっとした頼みごとができる人がいない。	①②
近所付き合いが薄れており、身近な情報が入ってこない。	②⑩
地域の小学校や同世代の子どもと関わる機会が少ないため、何に参加できるのか分からない。	⑥
コミュニケーションや対人関係の構築がうまくできないため、近所や職場で誤解されたり、孤立してしまう。	③⑩
外見上分からない障害であるため、周囲に障害を理解してもらえるか心配である。	⑤⑩
地域社会において障害者理解が進まない状況では、社会参加へ踏み出せない。	⑥
大きな声を出したりパニックになった時など、周りの人にまで迷惑をかけてしまうので外出が難しい。理解されなかったり怖がられたりもするので、助けを求めることもできない。	⑥
災害発生時や緊急時に一人でいた場合に、どうしたらよいか不安である。	③
緊急時に福祉サービス(福祉タクシー、手話通訳派遣)が使えないことがあり、困っている。	③⑦
介護者が入院したり病気になった時に、障害者本人を預ける所を探すのが大変である。	④⑩
現在一人暮らしだが、何か問題を起こさないか心配である。	⑨
入院したときは一日中手話が必要になる。筆談だと文章が分からないので困っている。	③
外出等で行動援護を利用したくても、重度の行動障害に対応できるヘルパーが少なく、利用できないことがある。また、ヘルパーを2人体制にすると利用時間が半減するので困る。	⑧
障害者本人が生活介護施設に通所しているが、2時台に帰ってきてしまうため、親が働きに出たくても出られない。	⑧

重症心身障害児(者)の生活介護の利用希望者が年々増加しており、利用の日数制限が行われている。	⑦
更生医療だと特に地方で使えない病院が多く、旅行先で利用できないことがある。	⑤
福祉サービスを利用する際の1割負担が経済的に厳しい。	①
工賃が安い。	⑩
金銭管理や食事管理など日常生活が難しい。	⑨
受診以外で外出できない。旅行等にも行けず、家に閉じこもりがちである。	⑪

(2) 将来、不安に感じていることについて	団体番号
親が高齢になって介護できなくなったり、親亡き後に、障害者本人の生活や入所施設等の行き場があるか心配である。	④⑥⑦ ⑧⑨⑩
家族が病気になったときのことを考えると不安である。	⑪
家族が介護できなくなった時に、車いす利用で全介助の子が地域で生活できるグループホームや入所施設がないので心配である。	④
肢体不自由の場合、緊急時に安心して預けられる短期入所施設が区内にないので不安である。	④
医療ニーズの高い障害者の入所先があるか不安である。	⑦
重度の障害児が増えており、通所施設が不足している。通所日数が減らされて、親の介護負担が増えるのではないかと心配である。	⑦
透析をしているが、高齢で身体が不自由になると通院が不安である。	⑤
透析患者が入れる特別養護老人ホームなどの介護施設が少ない。	⑤
障害者の数は年々増加しており、通所施設やグループホーム等が一人一人に保障されるのか不安である。	⑥
障害のある子が大きくなった時に、住み慣れた地域で福祉サービスを利用しながら自立して生活していけるか不安である。	⑥
障害を抱えながらできる仕事がどれだけあるか、また社会が受け入れるか心配である。	⑥⑩
身体機能等が低下していくことなど障害の重度化が不安である。	⑨⑪
金銭管理が心配である。	⑨
介護保険料は上昇しているし、収入は年金だけなので経済的に不安である。	①
視覚障害のため、介護されるようになったときのことを考えると不安は大きい。	②
点字を読める方が少なくなっている。	②
高齢者の介護施設に手話ができる環境がないことが不安である。毎日のおしゃべりに手話があることが聴覚障害者にとって、とても大きなことである。	③

(3) 区の福祉サービスや支援に対して要望すること	団体番号
生活介護など日中活動の場となる通所施設の整備を進めてほしい。	⑦⑧
車いす利用の重症心身障害者が通所できる区内の生活介護施設が定員オーバーとなっている。施設整備を進めてほしい。	④
特別支援学校に医療的ケアが必要な生徒が増えている。区は必要なニーズを把握し、医療的ケアが必要な障害者を受け入れられるよう生活介護施設の整備を進めてほしい。	⑥
医療の発達により医療ニーズの高い障害者が増加している。また、平成29年度には区内に都立水元小合学園の肢体不自由教育部門も開校する。医療的ケアが必要な重症心身障害者が通所できる生活介護施設の整備をしてほしい。	④⑥
区内に入所施設、グループホームの整備を進めてほしい。	④⑥⑨
車いす利用者が入居できるグループホームの設置を進めてほしい。	④
重症心身障害児(者)や医療的ケアが必要な障害者が利用できる通所施設、グループホーム、短期入所施設、入所施設の整備を進めてほしい。次の計画では、対象者としてしっかり明記してほしい。	④⑥⑦
重症心身障害者が安心して入居できるグループホームが区内に設置されるように、区は設置意向のある法人に対し積極的に支援してほしい。	④
保護者の緊急時などに、医療的ケアが必要な重症心身障害児(者)を預けられる短期入所施設(看護師常駐)を整備してほしい。	④
精神障害者の滞在型グループホームを充実してほしい。	⑨
親の高齢化に伴い、一人での生活が困難な高次脳機能障害者が利用できるグループホームを作してほしい。	⑩
グループホームを民間法人が作りやすくするために、物件の紹介や補助制度の充実などを図ってほしい。	⑧
ショートステイ先から通所施設に通えるように送迎をしてほしい。	④
放課後等デイサービスの事業所が増えて保護者が働きに行くことができるようになってありがたいが、事業所によって支援やレベルの差が大きいので、区は適正に事業所の指導をしてほしい。	⑥⑧
肢体不自由児や医療的ケアが必要な障害児が利用できる放課後等デイサービス事業所の開設の働きかけをしてほしい。	⑥
通所施設から退勤した後の時間も、デイサービスに通えるようにしてほしい。	⑥
リフト付バスは高いので、障害者団体の社会参加のためのバス借上補助をさらに充実してほしい。	①
外出がガイドヘルパー頼みであるため、同行援護の上限時間を増やしてほしい。	②
同行援護の時間数について、理由によって特例を設けてほしい。	②
重症心身障害児(者)が利用可能な訪問介護、訪問看護、在宅医療を充実してほしい。	④
通学に移動支援が利用できるようにしてほしい。	⑥
移動支援の利用可能時間の拡大や利用条件の柔軟な対応等、事業の充実を図ってほしい。	⑥
ショートステイを利用する際の送迎で遠いところへ行く時には、ヘルパーの同行を認めてほしい。特に自家用車で送迎する場合は一人で運転をするので、長時間、後部座席の子どもの世話ができない。	④
巡回入浴の業者に不満があり、業者を選べるようにしてほしい。	⑦
ヘルパーの報酬アップなど地位向上をお願いしたい。	④
手話通訳者派遣事業の利用時間は原則月20時間までとなっており、それを超えないよう我慢しているところがあるため、利用上限時間をなくしてほしい。	③
手話通訳者派遣を利用する際、手話通訳者を指名できるようにしてほしい。通院などの場合には、プライバシー配慮のため、いつも同じ手話通訳者を派遣してほしい。	③

重症心身障害児(者)在宅レスパイト事業の利用者条件を緩和してほしい。また、重症心身障害児(者)ではないが、同様の医療行為を必要とし、在宅で生活している肢体不自由の方もこうしたサービスが使えるようにしてほしい。	④
重症心身障害児(者)の在宅レスパイト事業を引き受けてくれる事業所を増やしてほしい。	⑦
緊急一時保護事業においてレスパイトで利用可能な日数を拡大してほしい。また、緊急一時保護を利用できる事由の枠を広げてほしい。	⑧
緊急一時保護事業について、宿泊が認められる場合とそうでない場合があるが、基準を明確にほしい。	⑥
生活のために手当を充実させてほしい。	①
外出のための経済的支援や巡回バスなどの運行をしてほしい。	⑪
障害者を抱える家庭は働くことが難しい場合が多いので、区内で使用できる商品券やクーポンの配布など経済的支援を充実してほしい。	⑥
福祉用具の助成を充実させてほしい。	①
難病患者は、従来の障害者が受けられる福祉サービスが受けられないことが多い。例えば、障害者団体のバス借上助成などであるが、それが受けられるように制度を拡充してほしい。	⑪
難病医療費助成制度を拡充してほしい。	⑪
精神障害者の医療費助成は、身体障害者、知的障害者と同様の扱いにほしい。	⑨
精神障害者において他の障害と同様、交通運賃の割引制度がほしい。	⑨
障害者であることを周囲に知らせるヘルプカードは、障害者にとって安心材料になっている。しかし、まだ多くの人に知られていないので、積極的に周知や配布してほしい。	①⑤⑧⑩
各福祉サービスの申請の簡素化やデータの共有化により、提出書類の負担を軽減してほしい。	⑥
手話通訳者が区役所(障害福祉課)に2人、ウエルピアに1人いるのはとても助かるので、継続してほしい。	③
乳幼児期・学齢期・成人期のライフステージごとに管轄機関が変わるが、生涯を通じたトータルな支援体制や相談窓口がほしい。	⑧
サービス利用計画の作成が義務付けられたが、相談支援専門員の力量に格差があるため、相談支援専門員のスキルアップを図ってほしい。	④
相談支援事業所が少ないので、事業所を増やしてほしい。	⑥⑨
福祉サービスの利用に必要な情報が行き渡っておらず、障害者・保護者間に格差がある。そのため、情報提供や相談窓口の充実を図ってほしい。	⑥⑧⑨⑩
福祉サービスは充実してきているが、障害者の増加に伴い希望どおりの利用ができないこともある。	⑥
スキルアップのための人材育成を行う事業所に対して補助金を交付してほしい。	④⑦
発達障害を診断する医師を保健所に配置してほしい。発達外来を区が医療機関に委託してほしい。	⑦
葛飾赤十字産院の移転に伴い、重症心身障害児(者)の短期入所用のベットを確保してほしい。	⑦
ウエルピアで実施している自立訓練の利用人数を増やすとともに、利用期限を長くし、若者は再就職できるまで利用できるようにしてほしい。	⑩
高次脳機能障害者は短期間で回復は望めないため、作業所を増やし、ウエルピアではその作業所に通所できるようになるまでの訓練をお願いしたい。	⑩
民生委員などによる生活支援、定期的な声かけや見守りがあると嬉しい。	⑩
閉じこもりを防止するため、現在実施しているリハビリ教室のようなものをもっと増やしてほしい。	⑪

(4) その他区の施策に対して要望すること	団体番号
自転車の乗り方のマナーやルールを周知徹底してほしい。自転車がスピードを出して走っており、衝突しそうになって怖い。	①
障害を隠し、家から出ない人もいる。障害者が社会参加できる施設や事業を充実させてほしい。	①
京成立石駅を建て替える際は、上下エスカレーターを設置するよう京成電鉄に働きかけてほしい。	①
総合庁舎の整備を進める際は、バリアフリーに配慮してほしい。	①
公共施設や公園の「誰でもトイレ」に、おむつ交換ができる大人用のベッドを設置してほしい。	④⑥
小中学校では、スロープの設置等、施設のバリアフリー化を進めてほしい。	⑥
肢体不自由児も利用できるよう、2階以上の児童館にはエレベーターを設置してほしい。	⑥
杖歩行の高次脳機能障害者であるが、道路上の黄色の線上をつい歩いてしまうが、黄色い線上は杖が滑ってしまい危険である。滑らない材質を考えてほしい。	⑩
足腰が弱っても地域での集まりに出掛けたいので、区内の交通網を充実させてほしい。	③
歩くのが少し困難であるため、短距離でも利用できる障害者優先のタクシーがほしい。	⑩
区が発行する書面は文章が回りくどかったり、丁寧すぎて逆に分かりにくい。聴覚障害者の特性として、単語は分かっても文章全体は理解できないということがある。	③
葛飾区公式YouTubeチャンネルに手話番組を作してほしい。現在の番組にはほぼ字幕がついているが、文章の苦手な聴覚障害者には手話での情報提供が必要である。	③
教育機関において、障害者と健常者を分けるのではなく、同じ中でその人にあつた支援をしてほしい。そうすることにより、子どもの頃からの障害に対する教育や理解につながると思う。	⑧
特別支援学校の児童生徒における副籍制度の更なる充実と理解を促進してほしい。	⑥
副籍交流を通じて少しずつ地域で声を掛けてもらうことが増え嬉しく思っているが、学校ごとに学年も障害種別も関係なく副籍を持つ子どもと親の交流(意見交換会)ができる日を設けてほしい。	⑥
通学圏内に特別支援学級がないため、子どもの足で50分ほどかかる小学校にある特別支援学級に通学している。子どもの体力や保護者の送迎にかかる負担が大きいので、各小学校に特別支援学級を設置してほしい。	⑥
学校の就学相談について、期間を十分にとり将来を見越した相談対応をしてほしい。また、様々なライフプランを描けるような情報提供をしてほしい。	⑧
発達に疑いのある子どもが増えているが、保育園で軽度の障害に対応できる先生がいるといい。学校に行く前の教育が大切であり、就学前の支援を充実してほしい。	⑧
障害者がいきいきと生活するためには周囲の障害者理解が大切であり、その啓発事業や道徳教育に力を入れてほしい。	③⑥⑧⑩
区内の教育関係者に対して、障害があっても一人一人個性のある人間であることの意識や人権啓発を行ってほしい。	⑥
高次脳機能障害の認知度は非常に低いため、潜在的に障害に苦しんでいる人が多くいることを知ってほしい。	⑩
成年後見制度では、金銭管理のみでなく、健康管理、生活管理、余暇活動等についても目を配ってほしい。	④
北欧では「障害があってもなくても20歳を過ぎたら自立生活を送る」という認識が社会で広がっている。区でも「障害者も自立して暮らすあたたかい葛飾」として日本そして海外にも発信できるような共生社会を目指してほしい。	⑥
障害者を特定の施設や作業所に困り込むのではなく、社会復帰手段の過程としての施設、作業所を充実させ、社会で受け入れる体制を作してほしい。	⑩
障害者対象のスポーツ教室は増えてきたが、陸上や車いすテニスなどの種目も実施してほしい。	⑥
車いすでも利用できるテニス場などの施設を増やしてほしい。	⑥

ポニースクールかつしかのパートナーアニマル個人教室の対象者が20歳までになっているが、小さい頃から慣れ親しんだものが20歳になると退会になってしまう。月1回でもいいのでできるようにしてほしい。	⑧
生涯スポーツ課で実施している障害スポーツ教室のトランポリンや水泳の実施回数を増やしてほしい。	⑧
入院の際、重度障害、特に成人の受入れが厳しい状況であるため、重度障害者の入院先を確保するための施策がほしい。	⑦
透析患者の通院の負担を軽減するため、病院周辺のアパート等を借上げ、透析患者が住めるようにしてほしい。	⑤
病院の診療の順番について、障害者は優先にするなどの改善を促してほしい。	⑥
就労後の時間に障害者同士で楽しめるような余暇活動やサークル活動への支援を充実してほしい。	⑥
一人で生活するためのアパートの賃貸料や手数料を補助してほしい。	⑨
住宅を借りる場合の公的保証人制度を充実してほしい。	⑨
身近な地域で映画、演劇、コンサートが見たいと思っても、感情を声に出して表現したり、たん吸引などが気になり連れて行けない。障害者だけの枠があったらいいと思う。	④
健常者と一緒に活動できないことが多い。そのため、公民館等でリハビリに良いといわれているビリヤード、カラオケ、卓球、吹き矢等ができる障害者だけの枠を設けてほしい。	⑪

(5)災害時における避難等の援護について	団体番号
災害時に一人では避難できない。障害によっては助けを求められない。助けにきてもらえるか心配である。	①②④⑤ ⑥⑦⑩
階段で移動できないので、災害時にエレベーターが止まった時の避難が不安である。	⑦
避難所に行くことは困難である。自宅にとどまる場合でも、支援物資が行き渡るようにしてほしい。	④⑥⑦
人工呼吸器を使用しているので非常電源があるところへ避難しなければならないが、避難先まで誘導してもらえると助かる。	④⑦
災害時、早めの連絡がないと避難が間に合わない。	⑩
聴覚障害のため、音声以外での情報ツールの構築をしてほしい。	③
避難所の中で手話による話し相手がないのは不安である。災害時でも孤独にならないようにしてほしい。	③
二次避難所である福祉避難所について、障害者やその家族に知られていない。もっと周知してほしい。	④⑧
障害者本人がお世話になっている施設で避難等の援護をしてほしい。	⑨
災害時の避難所での生活が不安である。	④⑥⑨
胃ろうや経管栄養の方が過ごせる避難所を確保してほしい。	⑥
避難所では障害に配慮した食事を提供してほしい。	⑤⑥
肢体不自由児・者に対応できる災害備蓄品の充実をお願いしたい。	⑥
関係機関が連携し、必要な医療的ケア等の内容を共有して、非常電源の確保などの対応ができるようにしてほしい。	④⑦
災害時に、最大5日間透析を受けられないと苦しくなる。	⑤
治療薬の確保が心配である。	⑨
今までの震災で障害者が置かれた状況について、区で情報収集して発信してほしい。	⑨
災害時に区としてできること、個人として準備すべきことを教えてほしい。	⑨
町会が実施する避難訓練への障害者の参加を積極的に呼びかけてほしい。	⑥
援護が必要な方と親族を集めて、実際に避難所となる区立小中学校での避難訓練の実施や、名簿を開示している避難支援団体との交流や意見交換ができる場を設けてほしい。	⑥
災害時、区内全域で障害者(児)への支援が行き届くよう、学校避難所運営会議で障害者(児)への理解を推進し、要援護者支援体制の更なる強化をお願いしたい。	⑥

(6)障害や病気を理由として不当に差別を受けたと感じたことについて	団体番号
コンサート等で手話通訳者を同行させることは認められないと言われた。また認められても手話通訳者分も有料だと言われた。	③
スポーツクラブに入会しようとしたが、聴覚障害者は緊急時等に対応できないと断られた。	③
新宿の交通公園でミニSLに乗るため愛の手帳を提示した時に、障害者は周囲に迷惑を掛けるという理由ですいている午後に利用してくれと言われた。このほか、博物館のプラネタリウムでも同様のことがあったと聞いている。	⑧
医療機関で診察を受け付けてくれないことがあった。	⑦
障害者や透析患者と人に言われるのが嫌である。病院の送迎車に「人工透析」等書かれているのも嫌である。	⑤
そんな身体でスポーツやっているのと言われた。	⑤
受傷後に会社に復帰したが、当時(8年前)は高次脳機能障害がほとんど認知されていなかったため、仕事のミスが多い、遅い、やる気がないと思われたり、こなせない量の仕事の納期をあおられる等精神的に追い詰められて退職に至った。会社には高次脳機能障害の診断書を提出したが理解されなかった。	⑩
幼稚園の保護者会で担任の先生が自分の子のことを「特別支援の子は」と発言したことで傷ついた。	⑥
飲食店への入店を禁止された。	⑥
区の検診で、「言葉が喋れないなら検査できない。主治医がいるなら来なくていい。」と言われた。	⑥
大きな声を出したりすることから、公共施設で立ち入り禁止になったと聞いたことがある。	⑥
移動支援事業所と契約しようとしたら、自閉症の走り回る子は契約できないと断られた。	⑥

(7) 日常生活や社会生活を送る上で、生活しづらい原因となる障壁(バリア)が取り除かれたと感じたことについて	団体番号
店などで手話で対応されたときや、手話で挨拶されたとき。	③
知的障害者が電車の中でパニックになった時、駅員さんに「何かお手伝いすることありますか」と声を掛けられたことが大変嬉しく、励みになった。	⑧
障害者差別解消法の大きなポスターが駅に貼ってあったのがありがたかった。駅は多くの方の目に留まるし、駅員にはよく理解してほしい。	⑧
金町駅南口のバスのスロープが利用しづらい構造だったが、区に伝えたところすぐに工事が始まり改善された。	④
都立よつぎ療育園の通所では、日々励まされ、力づけてもらい、心強く感じている。	⑦
接した人がこちらの障害を認知したときに、それに対応した行動で対処されたこと。すべてを助ける必要はなく、障害者本人ができることはやらせて、それを見守る心遣いが必要だと思う。	⑩
副籍交流を通して、地域の子どもが障害がある自分の子のことを知ったこと。そして、障害のある子も地域で生活していることが当たり前のことと伝わったこと。	⑥
自閉症の子が病院の待ち時間でパニックを起こす等大変だったが、そのことを病院に話したら、早めに診察を受けられるようになった。医療関係者に障害について理解が広がると安心である。	⑥
病院で視覚による情報の方が言葉より理解しやすい息子に看護師や医師が紙に言葉を書いて伝えようとしたこと。	⑥
区内の歯科受診の際に、障害対応の歯科医療トレーニングを一年半かけて実践したお陰で、発達障害のある息子が歯科治療を受け入れられるようになった。	⑥
いつも行くお店の店長さんは、障害のある子どもに優しく接して、バリアがない空間を作っている。	⑥
車いすを押して店内に入る際、ドアを開けたり、エレベーターの開くボタンを押したりしたこと。子どもが見知らぬ人のバックや衣服を触ってしまった時に、笑顔で「気にしないでください。」と言われたとき。	⑥
家族会での話し合いではありのままを話せるので、気持ちが楽になる。	⑨
区の職員が代筆をするので助かっている。	②